

中心市街地の魅力向上と 暮らしの場の充実を目指す

まちなかに明かりを
灯してにぎわいを

田島まちなかエリア
プラットフォームとは？

12月6日、田島地域上町地区において、田島まちなかエリアプラットフォームが主催する「雪まちストリート」雪を待ちながら街を灯す」が開催されました。

当日は、にぎわいづくりイベントや道路活用実証実験が実施され、会場にはたくさんの方が訪れました。

夜には、石造建築物等にイルミネーションが点灯され、街並みが明るく照らされました。

プラットフォームの
取組▼



未来ビジョン▼



田島まちなかエリアプラットフォームは、官と民が一体となつてまちなかの未来像を描き、その実現に向けて話し合い、取組を推進していくための場です。

令和6年3月1日の設立以降、住み暮らし自分たちが楽しめるまち、住みよいまちを基本とした発想で、「まちなかの回遊性の向上」「まちなかの魅力向上と暮らしの場の充実」「おもてなし力を高める」をテーマに、話し合いや事業を進めています。

特に、メインエリアとなりうる田島地域上町地区の石造建築物や、隣接する日本家屋周辺を中心に社会実証実験を行い、将来的な活用方法について具体的な議論を進めています。



インタビュー

プラットフォームに携わっている方々にお話を聞きました。



プラットフォーム会長
阿部電機 阿部保憲 さん

地域には、先輩方が長い時間をかけて築いてこられた大切な歴史や取組があります。それらを丁寧に掘り起こし、記録し、次の世代へ「物語」としてつないでいくことが、これからの地域づくりには欠かせません。

また、町を動かすような大きな事業は、一人では成り立ちません。お互いを尊重し、謙虚に、分かりやすく役割を共有することで、自然と協力が生まれると考えています。仕事や暮らしと両立しながら、無理なく続けられる運営を大切に、誰もが関われる地域の土台づくりを皆さんと一緒に進めていきたいと考えています。



ひと粒
五十嵐 史織 さん

中心市街地活性化事業の中でも、石造建築物を活用した取組を中心に関わらせていただき、数年が経ちました。閉ざされていた重い門が開き、扉が開き、窓が開き、見慣れた風景も本当に少しずつですが変化していききました。風と光が入り、そして人が歩くことで空気が流れます。

ここ数年、さまざまな人たちとコツコツと積み上げてきた空間に灯がともり、音楽が流れ、子どもたちの笑い声が響き、美味しい香りが溢れました。毎日見ている風景が輝いた瞬間でした。

まちづくりは一人一人が主役。その地を歩く毎日の一步一步が、まちの風景をつくっているのだと思います。

今後もこのような、まちを歩き、日常を楽しむ「きっかけ作り」に携わらせていただきつつ、私自身も楽しみたいと思います。

